



「大名クロスガーデンにて、舞鶴幼稚園のお母様方による楽しい演劇を観ました」

バプテリスト心身障害児(者)を守る会  
**愛の手を**

第177号

発行責任者  
 社会福祉法人 バプテリスト心身障害児(者)を守る会  
 重症心身障害児施設 久山療育園重症児者医療療育センター  
 理事長 山田雄次  
 編集責任者 馬原哲治  
 福岡県粕屋郡久山町大字  
 久原 1869  
 ☎代 (092)976-2281  
 FAX (092)976-2172

# 久山療育園の一員となって

副センター長 松崎 義和

40年近い一般病院での勤務医そして  
 健診機関の健診医を経て、久山療育園  
 の一員となったのは3年半前のこと  
 です。今までの臨床経験で何とかやって  
 いけるのではないかと思っていました  
 が、全く甘い考えでした。利用者の方  
 の病状は多岐にわたり、しかも重度の  
 方が多く、今までの経験や知識が通用  
 しないことを思い知らされました。一  
 からの勉強でしたが、若い頃のように  
 頭も身体も機能せず、今もばたばたし  
 て重症児医療の奥深さを感じる毎日  
 です。そんな園での勤務の中で、心に  
 残っているのはやはり開園祭、運動会  
 そして年末の街頭募金です。

開園祭、運動会は園の2大イベント  
 ですが、準備と実行に関わる職員や保  
 護者、ボランティアの方々のご苦労は  
 私の想像を超えるものでした。また利  
 用者の方が飛び切りの笑顔で楽しんで  
 いる様子には感動を覚えました。体調  
 を心配された重症の利用者が、その期  
 間には不思議に何事もなく楽しんで参  
 加されていることは、心をウキウキさせ  
 る体験が心と身体にいい効果を与  
 えているかを証明し、療育の大切さ

を示す事例だと感じました。

私も1年目の運動会で新人の演技に  
 参加しましたが、ひそかに練習し何と  
 かやり終えたときは久しぶりの充実感  
 で何歳か若返った気分でした。この感  
 動、達成感が利用者の方が望んでいる  
 ものだと実感した瞬間でした。

12月に実施される年末街頭募金に  
 は毎年参加しています。厳しい寒さと  
 雪や風にみまわれることが多い中、小  
 さな子どもたちが頑張っている姿に励  
 まされました。1年目はチラシを渡す  
 ことがこれほど大変なものかと思い知  
 らされ、2年目からは人の流れに応じ  
 て立つ場所を変え、チラシを出すタイ  
 ミングを研究して、少しずつ手にとつ  
 てもらえる枚数が増えていきましたが、  
 子どもたちの力には全くかきません  
 でした。終了後に仲間と天神で飲む酒  
 を楽しみに今年も参加させていただき  
 ます。

あと何年勤務できるかわかりませ  
 んが、身体の許す限り園と共に歩き利  
 用者に寄り添っていきたく思ってい  
 ます。

主張

「重症者ホーム・ひさやま」の開設に寄せる祈り

理事長 山田 雄次

■元久山町長からいただいた励まし  
の言葉■

「…重症心身障害児の問題は一時的な善意やお金の力で片付くものではありません。行政の力で施設を作ることが出来たとしても、それを継続して担う者の心が伴わなければ失敗しますし、失敗は許されません。その意味で行政担当者としてこの問題に悩みをもちながらタブーにしておりました。そのような時久山町に施設を作りたいというバプテスト教会の方々は教会の力、またその広がりを感じ私たちが手を出し得ない部分を補っていただけることを確信して町議会にも計り、久山町としてこの建設を受け入れ支援頂くことを全員一致して決議した次第です。…。先日準備委員会の方々にお願いを願って本当に熱意のある心構えを改めて確認させて頂き、私たちも決意を固めた次第です。私もこの事業が日本における一つのモデルケースとして重症児福祉事業の突破口となることを期待しています。…」少し長いことばの引用でしたがこれは1974年に久山町役場の大会議場で行われた「社

会福祉法人バプテスト心身障害児(者)を守る会」の設立発起人総会において小早川 新久山町々長(当時)が新しい課題にチャレンジしようとする私たちに贈って下さった励ましのことばです。  
古い資料の整理中に偶然目にとまり読み直し、「障害者自立支援法」から「障害者総合支援法」への流れにおける将来に向けてのこの道の厳しさが予想される中でひとりも見捨てられることのない重症児者との共生をめざし、「在宅支援センター」、特に「重症者ホーム・ひさやま」の開設に取り組み今の私たちにも同じように語りかけられてるように思われ、励まされました。

「重症者ホーム・ひさやま」は重症児者の新しい在宅支援の可能性を拓ける取り組みとして関係者からの関心と期待が寄せられています。しかし重症児者をホームの入居対象とするための人的配置を厚くする必要があり、経営的には年間1,000万円、2000万円程度の赤字決算となるという厳しい面があり開設に際して相当の覚悟が求められています。久山療育園開設にあたって頂いた励ましを、

創立40周年の記念プロジェクトに取り組み推進の歩みの中で再び聞かされた思いで励まされたということ。

■「重症者ホーム・ひさやま」を開設する意義■

年間1,000万円、2000万円という高額な赤字を承知のうえなぜ「重症者ホーム」を開設するのかという質問を受けたことがあります。それにはこの事業には特別の思いが懸けられているというところをこれ迄本欄の「主張」の場でも何回か述べてさせて頂きました。

重症児者医療・福祉の将来について言えば、例えば10年後の重症児者のための入所施設での受け入れベッド数は、或る予測によれば半数に減少し、既存の入所施設の利用が超・準超重症児者を始めとする医療的ケアを必要とする度合いの高い重症児者に置きが置かれ、その分医療的ケアの必要の度合いの低い重症児者の入所の枠が狭くなってゆく。…。「重症者ホーム」の建設は予想されるそうした流れの中で、将来における受け皿不足の事態に備えての救済的な機能を果たす期待が込められています。

将来在宅支援重症児者に対する受け皿不足ということが起こらないように、又、親なきあと、残される子どものことで親が悩むこと

なく安心して暮らしてゆくことが出来る福祉社会としてゆくためのテストケース(モデルケース)という意味を込め、開設される「重症者ホーム・ひさやま」の運営を堅守し、成功させなければならぬと思っています。

■「重症者ホーム・ひさやま」への運営支援の手立て■

「重症者ホーム・ひさやま」の開所は経営収支が厳しく年間多額の赤字決算となることを承知の上で、充分な経営努力と赤字補填のためのしっかりと手立てを行うという条件に2012年

12月の理事会で決議が行われた事業計画です。当初の赤字補填は久山療育園の支援組織バプテストコロニー友の会(以下コロニー友の会)をはじめとし一般の篤志家に広く協力の呼びかけを行い、不足分を法人から補填してゆくことになりましたが、コロニー友の会は2013年度からそのための支援計画を立て、8年間で赤字分の1/2にあたる600万円の献金を目標に活動の強化の取り組みを開始しました。法人からの赤字補填を無くすためには公的基金からの支援を引き出す努力や「重症者ホーム・ひさやま」の働きを地域にアピールし、市民・篤志家からの献金を呼びかけることも大切です。しかし本来的には赤字分の補填だけではなく、障害の重度化や

親の高齢化等の要因が重なり将来への深刻な不安を抱えて暮らしておられる方があるということを踏まえ、そうした限界状況にある在宅家庭に対する行政の適切な施策の実施、例えば重症児者の在宅支援の強化としてグループホームの活用を特例として認めるよう求めてゆく活動等々、当事者である保護者を中心としてコロニー友の会や施設が一体的に協力して法律や福祉の仕組みを変えてゆく運動を展開してゆく必要を感じます。

■開設の日を楽しみに■

6月から始まった「在宅支援センター」の建築工事は11月の時点で高いところで地上12mほど壁が建ち上り、肅々と進行しています。「重症者ホーム」の開設に向けた準備の進捗状況は11名の職員配置の公示や10名の入居仮契約者も確定し、来春5月中旬の正式な入居契約に備えて諸準備が進められています。来年の7月の開設の日を楽しみに、しかし心は引き締めて備えて行かなければと思っ





# 「在宅支援センターの建設と展望」

センター長 宮崎 信義

在宅重症心身障害児(者)に対する支援の必要性は、重症児者の実態調査に基づくニーズから明らかです。現在は定義通りの重症児者は全国で約43,000人と推定され、その3分の2が在宅の方です。調査によると支援が必要となる要素は、年長化・高齢化(保護者も含めて)や医療上の重度化が目立っていることです。支援は2025年問題を待たず、ここ数年以内にも実施されることが求められています。その一方で、行政施策の動向からは医療病床の削減や十分でない在宅支援事業や社会資源の実態があります。表題は「在宅支援センターの建設と展望」とさせて頂きましたが、現在実施されている取り組みと将来計画について述べさせて頂きます。

## 在宅重症児者の統計とニーズ

長期入院は半減(19,000床 ↓10,000床へ)、②在宅・地域生活は重症児者が大幅増(30,000→35,000人へ)、③重度知的・身体障害者の医療・リハビリニーズの急増等です。

私ももともと身近な統計が2013年6月25日に、福岡県福祉労働部障害福祉課から公表されました。既にご存じかも知れませんが、極めて重要な内容ですので下に引用し考察してみたいと思います。調査期間は平成25年2月28日から3月15日で、調査対象は在宅の重症心身障害児者1,757名のうち、市町村からデータの提供を受けた1,676名についての市町村からのアンケート調査です。有効回答数は1,059名(約63%)です。

①介護者の状況では、主たる介護者は母親822例(77.6%)、父親145例(13.7%)で約9割が父母に集中しています。父母の年齢は40〜50歳代が中心で確実に高齢化が進み、平均睡眠時間は約半数が5時間以下という結果でした。

調査結果の概要については、①在宅の重症心身障害児者の状況として、18歳未満(児童)が約4割、成人が約6割で、障害の状態は約4割が寝たきりで半数以上が食事・排泄・入浴で全面介助が必要です。特に約4割の方に医療的ケアが必要で、しかも人工呼吸55人(13.8%)、気管内挿管・気管切開60人(20.1%)、酸素吸入96人(24.1%)、痰吸引243人(61.1%)という重い医療内容でした。

②サービスマン利用の状況も詳細に調査されていますが、特に重症児者や保護者の高齢化や医療的重度化に伴う入所申し込みの増加で、入所希望時期は出来るだけ早く36人(8.7%)、1年以内14人(3.2%)、5〜6年以内が72人(16.6%)でした。

調査結果については、①在宅の重症心身障害児者の状況として、18歳未満(児童)が約4割、成人が約6割で、障害の状態は約4割が寝たきりで半数以上が食事・排泄・入浴で全面介助が必要です。特に約4割の方に医療的ケアが必要で、しかも人工呼吸55人(13.8%)、気管内挿管・気管切開60人(20.1%)、酸素吸入96人(24.1%)、痰吸引243人(61.1%)という重い医療内容でした。

④在宅サービスマンで特に求められる事業は、短期入所事業・日中一時支援事業、通所事業、訪問事業等で高いニーズが認められました。調査結果について考察致しましたが、実際の調査が行政によってなされたことの意義は大きく、在宅支援三本柱「短期入所、通所(生活介護事業、児童発達支援)訪問」についても大きな指標となります。

「重症心身障害児(者)」としたデータベースは身障手帳1級及び療育手帳A判定と思われ、定義通りの重症児者(大島分類区分1〜4)以外の方も含んでいると思われる。県では入所利用者を含めて県内の重症児者総数を3,019人(在宅が1,938人・約64%)と推計しています。市町村からの調査結果に基づく福岡県の在宅重症心身障害児(者)数1,757人と発表され、この数値は実数に近いものと思われま

す。重症心身障害児(者)の推計値0.034%(対人口比/旧推計値0.0298%では1511人)からは福岡県の場合は重症児者数は約1,724人となり県の発表数3,019人を下回っています(福岡県の人口は平成24年4月1日現在507万1,623人)。この把握された実数に基づいて在宅重症児者のニーズについての市町村からの調査結果が示されました。日本の人口統計(2010年)では約1億2800万人で福岡県は507万人(4%)です。

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

「在宅支援センター」建設と機能  
2014年5月に着工した「在宅支援センター」は、敷地面積1,841.81㎡(558坪)、建築面積1,250.59㎡(379坪)、延床面積1,984.84㎡(601.5坪)の規模となっています。センターの構成は、「在宅支援棟」とグループホーム「重症者ホーム・ひさやま」(共同生活援助・介護サービス包括型)からなりますが、制度上は「重症者ホーム」は福祉型施設で同一法人によって経営されますが、「在宅支援棟」を運営する重症心身障害施設「久山療育園重症児者医療療育センター」とは別施設になります。建築費は合わせて5億5,200万円、5億6,200万円となり、全て全国の支援者からの献金・募金や法人の経営努力によるものです。

## 在宅支援構想の歩み

久山療育園重症児者医療療育センターでは、創立理念に従って、入所・通所・短期入所利用の重症児者と共に生きる支援の在り方を考え続けてきましたが、2008年に施設全面改築が成った時から、次は在宅支援三本柱(通園事業・短期入所事業・訪問事業)の充実と、両親も重症児者も高齢化及び重度化による医療支援が切実になる中で受皿となる入所(入居)事業からなる2009年度からの「在宅支援プロジェクト」を策定し実施して参りました。その計画は第一次計画が2012年度の医療病床の増床と3段階の傾斜配置(医療重点病棟42床・療育重点病棟42床・生活重点ユニット10床)へと進めたいました。そして第二次基本計画は、2015年度開設が予定されている「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

## 今後の医療福祉施策の行方

長く公法人立の重症心身障害児福祉協会(現在は公益社団法人「日本重症心身障害福祉協会」)で指導的立場の重責を担っておられる旭川荘理事長の末光茂先生が、2012年9月号の国立医学学会誌「医療」で「10年後」の予測「公法人立施設からの主張と挑戦」を著わされ、今後の重症児者及び制度の動向について重要な推定をされています。その内容は、①

①在宅の重症心身障害児者の状況として、18歳未満(児童)が約4割、成人が約6割で、障害の状態は約4割が寝たきりで半数以上が食事・排泄・入浴で全面介助が必要です。特に約4割の方に医療的ケアが必要で、しかも人工呼吸55人(13.8%)、気管内挿管・気管切開60人(20.1%)、酸素吸入96人(24.1%)、痰吸引243人(61.1%)という重い医療内容でした。

②サービスマン利用の状況も詳細に調査されていますが、特に重症児者や保護者の高齢化や医療的重度化に伴う入所申し込みの増加で、入所希望時期は出来るだけ早く36人(8.7%)、1年以内14人(3.2%)、5〜6年以内が72人(16.6%)でした。

「在宅支援センター」(「在宅支援棟」及び「重症者ホーム」)で実践

の自己負担金を障害基礎年金や特定障害者特別給付(家賃補助)の範囲内で手元に月額約3万円が残るように低く抑えたことによります。入居実施する機能と事業については次項で述べます。

「在宅支援センター」の構成と事業  
在宅支援三本柱を實踐する基地として

在宅重症児者を支える三本柱は、通所事業・短期入所事業・訪問事業からなります。現在の通所事業は一日19人定員(生活介護事業+児童発達支援事業+放課後等デイサービス事業)ですが、在宅支援センターが開所すると「重症者ホーム」入居者の日中活動の場となり、定員を26人に増員する予定です。またセンターとの連携から利用者像に合わせて「在宅支援棟」内の第二療育室が活用されます。現在、療育等支援事業で実施している児童通所事業「宇宙」(そら)も児童発達支援事業に位置付け充実を図りたいと考えています。

短期入所事業は、在宅支援棟を基地として、相談支援室(一般)の相談支援業務による調整が更に役立てられ受入れ病棟との連絡調整が円滑に進められることを期待しています。

訪問事業は、訪問リハビリが主体ですが、当面は現在の運営の延長で実施し、「訪問看護」「訪問介護」も利用者の必要に応じて組織を整備し個別に対応を進めることが考えられます。

その他、「在宅支援棟」の機能として、相談専門支援事業所「ゆい」や「糟屋中南部自立支援協議会事務局」等が同じフロアに位置することの有用性を尊重し、地域福祉に広がり連携が生まれることが期待されます。

「重症者ホーム・ひさやま」の運営

「重症者ホーム・ひさやま」は2014年度からグループホーム(共同生活援助事業・介護サービス包括型)に一元化された旧ケアホームです。福祉型施設ですので次項に示すように、医療は必要時に本体が支援します。2015年7月の開所を目指し、入居説明書に基づいて入居仮契約を進めています。以下にホームの概要を説明します。

①入居者についての基準と人員配置・定員10人。職員数11・5人(施設長1(0・5)人、サービスマン管理責任者1人、生活支援員10人)です。生活支援員は、介護福祉士+世話人からなりますが、日中は入居者は通所などの日中活動に参加しますので、ホーム職員の2人が通所に向います。②入居者の障害度については本体の医療病床と区別し、障害支援区分Ⅱ6・5、超重症児者スコア3点以下(経口摂取全介助/食形態はきざみ)を考慮しています。具体的には日常的な医療処置がなく、食事は経口摂取可能・寝返りなど姿勢変換がある程度可能で意思表示を何らかの方法で出来る方が対象です。③ホームの利用料金は月額約77,000円(日用品費は12,000円を含む)で、障害基礎年金+特定障害者特別給付(家賃補助)から手元に残る金額は生活費を差し引いた約30,000円を予定しています。高齢者福祉施設と比べても低く抑えています。

「重症者ホーム」の医療支援

「重症者ホーム・ひさやま」は福祉型で家庭や地域のホームでの健康管理と同様です。但し、福祉型のホームを建設するに当たっては緊密な医療支援の必要からセンター本体に隣接することを行政にもお認め頂きました。

福祉型であるホームの医療支援は重要で、開設準備室からの要望について診療会議では次のように医療支援について基本方針が確認されています。外来との連携について「重症者ホーム」の医療的支援の必要が詳細に検討され、以下のよう計画された。

- ①入居者は外来診療となる。入居時外来診療録を作成する。
- ②園からの移動者は主治医が担当医として継続、在宅からの入居者は診療部長が担当する予定。
- ③年2回、血液検査・レントゲン検査を行う。
- ④投薬は、原則として久山療育園より行う。
- ⑤週一回程度の回診(外来定期受診/往診)を行う。
- ⑥夜間・休日は療育園当直医に外来診察・診療を依頼する(来年度より宿日直マニュアルに掲載する)。
- ⑦「重症者ホーム」入居者の合併症について、入院を要する場合は医療病

床への入院や必要な場合は専門医療機関への紹介で対応する。

創立理念と歴史に学ぶ医療・療育

改めて久山療育園の事業の指針である創立理念に基づいた運営を次のように確認しています。

①「設立の目的」から「重症心身障害児に愛の手を」→在宅及び入所重症児者のニーズに聴く診療計画と実践。「重症児が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」→「在宅支援センター」への医療支援。「久山療育園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会(福祉共同体)づくりの拠点である」→「在宅支援センター」の働きから福祉共同体の実現、地域医療連携へ。

- ②「運営基本方針」から「久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならない」→「コロニー友の会」諸教会及び保護者会との協働によって園の正しい方向が維持される。「久山療育園重症児者医療療育センター」も「在宅支援センター」も十字架を負う施設。
- ③「療育基本方針」から「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのために、それぞれ最善の職的協力を進めることによって、その専門的領域の働きを全うしなければならぬ」→「久山療育園の療育」の再確認と医療マインドに基づく生命の尊厳を支えるQOL(生活の質・生命の質・人生の質)重視。

「療育病院」としての基本的な姿勢

重症心身障害の実態と制度の変遷を考察し、「医療」と「療育」が堅持される必要から、地域連携における「療育病院」としての重症心身障害児(者)施設役割について確認する必要があります。

- ①「療育病院」…「チーム医療」及び「チーム療育」へ。入所(契約入所・措置入所・短期入所)、及び通所事業における健康管理・療育(活動リハビリテーション)・介護・補装具の処方・障害児(者)歯科を実施する。
  - ②「主治医(医学的管理)」…在宅重症児者では専門医療機関(大学病院、こども病院、国立病院機構)で医療に特化した働き医療入院。在宅人工呼吸・在宅酸素療法などは算定している医療機関の指示に従って実施される。重点地域では久山療育園も主治医となる。
  - ③「家庭医(かかりつけ医)」…家族と共に近隣の日常健康管理を行うホームドクター。感冒などのプライマリーケアを実施される。
- おわりに  
現在も「在宅支援センター」の建設が進められていますが、重症心身障害児(者)の必要と多くの支援者の期待に応えるべく、建設されたセンターがより理念にかなったものであることを願いこの基本概念を呈示致しました。



ご協力ありがとうございました

(2014年7月1日〜9月30日) 敬称略

【法人会計】

一般献金

宮里和江 小副川ゆり 秀村蓮三 栗田昌直 小野敏夫・久恵 豊前キリスト教会 安部聖子 米田直美 活水同窓会北九州支部 西南学院高等学校インターアクトルクラブ (学)西南学院西南学院高等学校母の会 東倉忠勝 MAKKI TTYCHUNSAU 前田文生・公子 井手可南子 粕屋理容組合粕屋支部志免区 竹市志津くずめよし 榎谷悦子 山口正夫 浦田千年 伴敦子 香蘭女子短期大学 吉田泰彦 木下孝之 久山町中久原区 久山町東久原区 森田勝利 (株)きさく工房 松枝秀明 福岡県立福岡特別支援学校 古賀成 野田靖生 久山町上久原区 平野幸枝 横溝玲子 川手康彦 小山和子 因敷 村津俊博 川手康彦 若松バプテスト教会 女性会アシサイバザー (以上491,520円)

指定献金

福元孝三郎

(以上500,000円)

建築献金

山田雄次 宮邊悦子 瓜生美知子 福岡賢二・聖子 自動販売機売上 献金 嘉久明子 川原大輔 藤城有加 井上亮輔 川野直人 南谷なつえ 早川泰子 石井信康 三壺紗織 川原千恵子 松田真奈 折田裕子 塩崎しおり 西南学院バプテスト教会姉妹会 山口正夫 テレコル(株) 高橋香代 安部田鈴香 松崎義和 宮野秀明 野上健人・勇斗 東福岡幼

稚園保護者の会 末松克也 福元孝三郎 後藤香織 福岡西部バプテスト教会 甲斐丈士 副島徳恵 すみれの会代表表川崎律子 今中富美子 奈良崎洋子 松藤一作 古賀美紀 今村幸文 平川博・成 田隈バプテスト教会ユニアの会 渡辺久子 大原定行 窄口正一 久山町下久原区 社会福祉法人キリスト者奉仕会 久山町つくしんぼうの会 山口初美 塚原千鶴子 池田愛子 草場博志 宮崎信義 安部聖子 佐護キヌエ 又野たかし 佐藤徳 河島美穂 大原信幸 永島藤昭 志満秀武・てい子 中尾清寿 深見達弥 牟田逸雄 通所保護者来久の会 木下康一 中島由紀子 久山療育園献金箱 (以上3,118,638円)

【施設会計】

施設献金

(株)西部クリーン 新藤佐知子 西南学院高等学校生徒会 岡本好枝 矢津真澄 田中三千男・由美 平京子 東倉忠勝 松尾貴光 名雪賢一 松尾勇一 山口吉昭 矢山和平 花原章二 久山療育園保護者会 新藤賢恵 森永清治 羽田有子 船附啓二 大高勝夫 佐伯年子 田上洋子 (以上338,900円)

献品

船附啓二(タオル) 大高勝夫(雑巾・石鹸) 佐伯年子(麦茶) 田上洋子(布たわし) 福岡県理容組合糟屋支部(タオル) 原俊一・英子(車椅子) 嘉久明子(梨 ハンカチ) 野間ミツノ(リリアン・くす玉) 後藤香織(訓練具) 瑞穂キリスト教

開園祭献品

山藤朋子 福岡ヤクルト販売(株) 本間ジュン 中山裕子 米工房・井上 安倍和子 井上幸子 貫梅子 安里美沙希 安徳光代 鎌倉ワカ子 河島美保 ヴェガ黒木義樹 宮野秀明 福岡医療関連協業組合 (株)博防 松尾建設(株) 土居祝男 長倉哲夫 めだか共同作業所 東福岡幼稚園 吉海麻衣子 安河内育子 城戸喜美子 松永将和 三善啓子 南谷なつえ 立石ゆりか 奈良崎洋子 井本世都子 武原重幸 泉清隆 堺トヨ子 園田敦子 野津美恵 野口美由紀 安部田鈴香 (学)西南学院 中村文香 草場美恵子 青木常郎 大谷美保 松尾勇一 松尾国利 福岡女学院中学・高等学校 嘉村由香 大重佐和子 羽野美濃 窪田次男 花田京子 松崎義和 小森孝子 足立裕子 金子マスマ 山野祥子 百本利雄 末浦佐和子 国崎妙子 内田章二 東美紀子 汐田美賀 浮橋美貴 佐伯マチ子 清水敦子 野口恵 宮崎信義 阿部初美 荒金幸 町田志磨子 西村祐美 山崎真澄 澤田久夫 甲斐ワカ子 中根史子 野中尚子 村上和美 永沼清美 古賀和男 マルヒロ青果 田中節子 宗廣清彦 福岡丸本(株) 高

開園祭献品

会女性会(タオル) 草場貴子(麦茶) 名雪賢一(タオル) 栗ヶ沢バプテスト教会(石鹸、おしぼり、雑巾、足ふきマット、バスタオル) 武野昭代(ふきん、タオル、サラシ) 匿名(切手) 福岡友の会(食食用エプロン) 福岡県理容組合糟屋支部(タオル) 川崎バプテスト教会女性会(食食用エプロン、おしぼり) (以上463,400円)

瀬孝介 宗廣誠 小森悦子 山口吉昭 大山優子 原田恵子 大坪啓子 佐伯年子 草場貴子 横溝俊之 新藤賢恵 小島雅子 福田靖 平京子 藤野アサ子 山口千恵子 山本俊次 波田良 牧角雅子 井上清美 村津俊博 松田真理 深見達弥 田上洋子 サニクリーン九州 塩崎しおり 緑川啓一 乃美吉江 福田美穂 (有) 平田紙文具事務機 長田慶子 川勝慶子 白水まゆみ 長寿美笑 (株)如水庵社長森悦次郎 フェイスブック「ゆかいな仲間たち」 萩本光雄 馬原哲治 大重弘美 鬼塚公認会計事務所 (学)西南学院職員有志 野田靖生 堺麗子 嘉藤純平 宮内千鶴子 松尾智則・裕美 中村弘幸 田村寛子 古城佳彦 藤城淳子 磯望 川原大輔 吉本法生 深草哲子 矢山和平 森永清治 川原千恵子 末松克也 坪根香代子 渡辺玲子 古賀信行 森直美 中山徹 中山キヌ子 上野かな (株)フクエキ 守田孝子 横山友美 篠栗キリスト教会 伊藤聡 生野食品 コカ・コーラ 澤地寿賀子 諏訪田美紗緒 岡田昌子 山田いづみ 河野啓子 蓑原真由美 マルゼン 土居務 梅津逸子 早良キリスト教会 鮫島隆之 (有) オートジャンプ (株)九電工 パラマウソントベッド(株) 岩田浩一 奥裕子 高倉博子 大塚利一 水野隆代 久保山敬子 水流絹子 庄林洋子 山口正夫 下条明日可 山田聖 踊純子 石橋彰子 西条千恵子 匿名

職員の異動

(8/1〜10/31)

【退職】

本庄友美(看護師) 8/31 池上千代子(療育員) 8/31 栗原好恵(療育員) 9/30

【採用】

磯野幸太郎(療育員) 9/1 原田美香(療育員) 10/14

献金申込送金先

社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会 〒811-2501 福岡県粕屋郡久山町大字久原 1869 久山療育園重症児者医療療育センター内 ☎(092) 976-2281(代) 《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】 《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普 71888 個人、会社共に免税の対象になります。 メール: hisayama@hisayama-smid.jp

次回にて掲載予定です。

「第38回開園祭報告」

センター長 宮崎信義

久山療育園重症児者医療療育センターは、創立38周年を迎えました。開園祭には多くの方々が参加され、107名のボランティアさん、奉仕して頂き、センターと地域をつないで頂きました。これからも「障害者総合支援」を実践するセンターとして、施設・保護者会・コーン友の会の働きの拠点としても用いられば幸いです。式典では活動時間4,000時間から500時間までのボランティアさん9人と、永年勤続の職員11人が表彰されました。その後の公開療育やふれ合い広場、バザー、展示を通して重症心身障害児(者)と地域の皆様、職員・保護者と参加者の方々の交流がありました。

今年の開園祭の印象を園内外の方々に尋ね、また感想を頂きました。いずれの方も盛況の内に進められ、参加者の笑顔や職員とボランティアさんの働きなど暖かな雰囲気の中でふれ合い語り合いが見られたこと、バザーも活況で、捧げられた収益は在宅支援センターに使わせて頂きます。久山療育園が

将来とも、見ることも出来ないもの(かかり・内的環境・雰囲気)を引き継いでいくことを願っています。

第38回の開園祭のテーマは「在宅支援プロジェクトの実現」とさせて頂きました。それに基づく久山療育園のビジョンは、建設の槌音が聞こえてくる「在宅支援センター」の建設と2015年7月を目標とする「重症者ホーム」「在宅支援棟」の開設です。ここを基盤として「在宅支援三本柱」(通園事業・短期入所事業・訪問事業・相談支援事業など)を推進していくことを心掛け、園の総力をあげて進められています。そのため

に全国から支援が寄せられていることは奇跡のような思いも致します。開園祭において、参加された皆様共々に重症児者の医療と療育、福祉が進められていく時でした。



「みんなのスマイル」



「商品バザー会場」



「食堂バザー会場」



藤田 英彦

「いと高き所には栄光、神にあり、地には平和、御心に適う人にあれ」

ルカによる福音書2章14節

この10月10日に、2014

年度のノーベル賞受賞者が、パキスタンの女子学生マララ・ユスフザイさんと、インドの児童労働問題の活動家カイラシュ・サティヤルティさんに決まりました。受賞候補に上げられながら、まさかと思われた日本の「憲法9条にノーベル平和賞を」の受賞はありませんでした。それを伝える日の朝日新聞「天声人語」欄に「9条にノーベル平和賞を」の運動を神奈川県の子育て中の主婦が始め、全国に共感が広がった。署名をする人が閣議決定の前夜から増え、40万人を超えた。「それでも、戦後日本に平和をもたらした9条の役割の大きさを否定できるものではない。昨日の受賞はならなかったが、粘り強く

続ける値打ちのある挑戦ではないか。」とありました。この主婦は日本バプテスト連合大野教会員鷹巣直美さんです。クリスマスに、どこの教会でも読まれるルカによる福音書2章14節のイエス誕生の時、飼葉桶の許に駆け付けた、夜野宿をしながら羊の番をしていた羊飼いに對して讚美した天使の歌声を、今年も聞きます。

今年の7月1日、見せかけのアベノミクスの甘い言葉と共に、「主権在民、非戦、人權の尊重」を前文に、憲法9条を掲げて、敗戦後の日本が何とか守り通してきた「平和」が強引に国会に相談することなく一内閣の決定で、何時でも「戦争の出来る国」と変えられる、もはや戦後ではないと言われるようになりました。

聖書が伝える天使の言葉「栄光神にあり、地には平和、御心に適う人にあれ」をしかりと聞いて行きたいと思えます。また「御心に適う」とは、今、この日本の地ではどういうことかを具体的に考えて声を挙げてゆきたいと思えます。



支援者からの声 第十一回

「久山療育園への感謝」

西南学院大学神学部名誉教授  
平尾バプテスト教会協力牧師

青野太潮



「久山療育園」の名前を初めて耳にしたのは、私がまだ東京の目白ヶ丘教会の会員であった一九七〇年代初めのころでした。代議員として天城山荘での連盟の年次総会に出席していたときに、福岡の川野直人牧師などが中心となって、福岡にぜひ重症心身障害児のためのバプテストの施設を立ち上げたいのだ、というアピールを、「提唱の時間」になさったのでした。その後私はスイスのチューリッヒ大学神学部留学しましたので、日本のバプテスト教

会の動向を詳細にはフォローできないでおりました。

留学中に思いもかけない仕方から招聘をいただいていた私は、一九七八年に帰国して福岡に赴任しましたが、そのときには、そのバプテストの療育園は、すでに立派に目に見えぬ形で久山の地に建設されておりました。そして私が教会員となった平尾教会では、たくさんの方々が「コローニ友の会」をしつかりと支援しておられましたので、よそ者である私も、自然に久山療育園を支援する姿勢を、いつの間にか与えられておりました。

そして私の神学的な営為もまた、この久山療育園との関わりなしには考えられないものとなりました。とくにMit-Leben（「ともに生きる」という標語とともに展開されてきた「へために」ではなくて「ともに」）という捉え方は、ただ単に支援者にとつて当てはまるだけのものではなくて、まさに神さま・イエスさまの「在り様」そのものに深く関わる捉え方なのだという、キリスト教の核心部分にふれる認識を与えられました。そのことについては、久山療育園での公開講演「へために」ではなくて「ともに」のキリスト論において話す機会を与えられ、それは『愛の手を』62号（一九八七年）に収録していただきました。そしてそれはさらに、私がこれまで発表してきた論文・エッセイを

集めた『最初期キリスト教思想の軌跡——イエス・パウロ・その後——』、新教出版社、二〇一三年、二二九—二四二頁、に再録させていただきます。

いまひとつ久山療育園との関わりのおかげで与えられてきた基本的な神学的な認識があります。それは、「障害者」に当てはまらないような神学的命題は、「健常者」にも当てはまらない、ということですが、通常は無意識のうちに「健常者の視点から」の神学論議がなされ、それは「障害者にも」当てはまる、というふうに関わりを断つた展開である、と私は考えるようになったのです。つまり、「苛酷な生」を生きることを余儀なくされている「障害者」たちにとつて意味のある神学的な発言だけが、「健常者」にも妥当するのだ、という思考の順序こそ本来のものではないか、ということですが、そして、「不条理」とも言うべき「苛酷な生」のなかに置かれていく「障害者」こそが、実は真つ先に「神に愛されている者」そのものなのだ、という認識が与えられたときにはじめて、「健常者」とつとてのまっとうな「神学」もまた展開され得るのではないかと、という事です。

その典型的な例が、私が神学の学徒として生涯を賭けて取り組んできた、「贖罪論—辺倒のキリスト教」だけでよいのか、重度の、ときに「植物状態」に置かれた

「障害者」にとつて、「贖罪論」はそもそも何らかの意味を持ち得るのか、という問いです。それは、例えば二〇一一・三・二一のあの、「不条理」の極みとも言うべき東日本大震災で亡くなられたり被災されたりした人々にとつて、「贖罪論」はいったいどのような意味を持ち得るのか、という問いと同じものです。

そして私は、新約聖書においてその「贖罪論」と結合して語られることが決していない「十字架の神学」こそ、イエスが言おうとされたことがらであり、神さまの最終的な「福音」なのではないか、と考えるに至っています。つまり、「弱さ、愚かさ、つまずき、（律法の）呪い」としての「十字架」こそ、真の「強さ、賢さ、救い、祝福」なのだという、「十字架の逆説」をその内容とする考え方も、別様の考え方があることは私も承知していますが、しかし私自身はこのような捉え方を、まさに久山療育園との関わりのおかげで与えられてきました。その意味で私は、久山療育園には心底から深く感謝をしております。

一年に一度くらいは「友の会」の街頭募金に参加しようと努力してきましたが、ここ数年はそれもできていない状態です。しかしせめてそれくらいは、この「感謝の思い」の表われとして継続していきたい、と反省を込めて思わされています。

クリスマス献金のお願い

「見よ、おとめが身ごもつて男の子を生む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。（マタイによる福音書第1章23節）

神様が私たち一人一人を愛し、その罪を担い、私たちに使わして下さったイエス・キリストのご降誕を共にお祝いしたいと思えます。

今年も皆さまのお支えに感謝をし、クリスマスのお祝いを行います。詳細は後述の通りです。ぜひとも足をお運びください。

クリスマス献金の振込用紙を同封させて頂いております。皆さまのご協力をどうぞよろしく願ひ致します。



第25回 久山療育園ワークキャンプに参加して

和白バプテスト教会 城前 和徳

今年も久山療育園の恒例行事「久山療育園ワークキャンプ」が、「あなたも隣人になってみませんか」のテーマのもと8月18日(月)〜20日(水)の2泊3日の日程で行われました。

開会礼拝において、山田雄次先生より「善きサマリヤ人のたとえ」(ルカ10章25〜37節)から、ワークキャンプに参加された一人ひとりが、入所者との出会いを通して、隣人性について考え、且つ、自らの主にある「献身」の勧めがなされ、参加者一人ひとりの心に、小さな子どもさん子どもにもなりに緊張したワークキャンプのスタートとなったと思います。

プログラムは、昨年より始められた「職種当てクイズ」で、久山療育園で働いている方々の仕事内容が「病院・学校・家庭」と多くの働きがあり、このクイズのコーナーを通して、参加した一人ひとりが、将来、何らかの働きで久山療育園を支えるきっかけとなるように、まさに献身に繋がるプログラムでした。また、二日目の「分かち合い」で、一番好きなプログラムについて聞いたところ、「街頭募金」が圧倒的に多いことに驚きました。街頭募金の奉仕において、町の人々との具体的なふれあいにおいて、肌で自らが重症児者と共に生きていることを実感したか

らだと思えます。

今年のワークキャンプで特徴的なことは、初めて参加した子どもさんたちが多かったことです。ワークキャンプに参加する子どもたちの中には、毎年参加し、15回〜20回以上の方々も多くいますが、彼らも、最初参加した時は、自分勝手に振る舞い、ある意味ではヤンチャポーズで、面倒を見られる側の者でありましたが、参加を重ねていくうちに、今や面倒を見る側にいることを覚える時、このワークキャンプは、重度心身障害児者との出会いを通して、すなわち、最も小さい者の隣人になることによって、参加者一人ひとりが、主イエス・キリストへ仕える業が育まれていることに気付かされます。たぶん初めて参加した時には、入所者との出会いは「拒絶感」であったのではないのでしょうか。しかし、参加回数が増えるに従って、その「拒絶感」は、「一对一の人間関係の隣人」へと自らを変化させられていることも事実です。

御言で、「主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物差し上げたのでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。いつ、病気をなされたら、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。」そこ

で、王は答える。「はつきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」(マタイ25章37〜40節)と記されています。まさに、ワークキャンプを通して、参加された一人ひとりは、確実に主に在って「変化」へと導かれ、教会人としての歩みも豊かにされていることを感謝します。

今年のワークキャンプも、久山療育園の職員の皆様をはじめ、入所者、保護者の皆様の参加と御協力を心から感謝いたします。また、諸教会の祈りと御支援を感謝いたします。来年も多くの方々が参加されますように祈っております。ワークキャンプでの出会いを感謝しつつ



「みんなでがんばりました！！」

バプテストコロニー友の会からのお知らせ

第17回久山療育園支援

チャリティコンサートのお知らせ

(久山療育園のために 2015チャリティコンサート)

来年2月21日(土)午後2時〜4時に、西南学院大学チャペルにて、チャリティコンサートを行います。出演者は、例年ご出演頂いているテレベルトグリーン、今年西南学院OB・OGで結成されたゴスペルクワイア、 韓国人デュオHueの計3組を予定しております。

入場料1000円。チケットは、福岡北九州のキリスト教会や久山療育園他で購入できますし、当日販売もあります。



テレベルトグリーン

バプテストコロニー友の会

年末街頭募金のお知らせ

今年も福岡市天神地区におきまして、下記日程で街頭募金を行います。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

- 12月13日(土) 13時〜15時
- 12月20日(土) 13時〜15時
- 12月21日(日) 13時〜15時
- 12月22日(月) 13時〜15時
- 12月23日(火) 13時〜15時
- 12月24日(水) 13時〜15時
- 12月27日(土) 13時〜15時

場所 福岡市天神大丸デパート前

問い合わせ・連絡先 久山療育園 092-976-2281

※日程につきましては雨天等により急遽変更する場合がありますのでご了承ください。



### 久山デーの報告

10月25日(土) 午前11時から午後2時30分まで、平尾バプテスト教会大名クロスガーデンにて、久山療育園ボランティアの皆様の主催で久山デーが行われました。昨年からはじまり、今年で2回目の開催となります。プログラムは、午前中に平和一丁目フラチームによるフラ賛美、ボランティアによる紙芝居、マジックショー、午後からは、桢口さん(ファゴット)、立花さん(ジャズピアノ)、小野さん(コントラバス)によるチャリテイコンサート、そして、ボランティアや教会の皆さん手作りの数々の品、楽しいバザーと美味しいランチの時間をいただき、暖かい雰囲気の中で久山の皆さんとも家族のような出合いをいただき、大変豊かな素敵なひと時となりました。

今回、お手伝いくださった音楽家のファゴットの桢口さんは、もう昔から久山のことを覚えて多くのご協力をいただいていたのですが、昨年からはじめてお手伝いくださったジャズピアノニストの立花さんが、「来年も、今後久山デーのことはぼくらに任せてください。この働きを世界に発信していきますよ」と言われたことにびっくりでした。コントラバスの小野さんとても嬉しそう

に、「来年の10月31日(土)は、3人も大丈夫です。是非その日にできたら嬉しいです。この日は久山デーの日としてあけておきます。」と言われ、その積極的な思いに大変励まされ、感動したことでした。会場からのリクエストの曲にも自由に応えてくださり、お子様のお母さんが、「演奏が素晴らしいだけでなく、演奏家の皆さんが体ごと、音楽を楽しんでおられる思いが、ダイレクトに届いてきて、こどももいつになく瞬きも多かったです」と喜んでおられました。音楽はほんとに命を喜び、生かし、楽しさを吹き込んでくれると心底思わされた躍動感たっぷりの命のコンサートでした。

準備から、また当日参加してくださった方々、遠くからお祈りで支えてくださった皆さん、ほんとうにありがとうございました。今後とも久山療育園ボランティアの働きを覚えてお祈りください。すべてのことに感謝して、ご報告まで。

(バプテストコロニー友の会  
ボランティア委員 平良民枝)



「いらっしやいませ!」



「素敵な演奏ありがとう」

### 2014年高等部修学旅行

めぐみ病棟 10月1日  
ひかり病棟 10月8日

しむことでした。

めぐみ棟チームは、参加者全員のリクエスト曲でイントロクイズを楽しみながら賑やかに修学旅行が始まりました。到着してイルカとアシカのショーをたっぷり楽しんで、皆で大いに盛り上がりました。また食事は展望の見事な八階のレストランを貸し切りにして、豪華な食事を楽しみました。なんと当日、下の広い芝生の上で結婚式が行われており、「ワーすごい、きれーい・・・」と皆で大騒ぎしました。

ひかり棟チームは、バスの中から盛り上がり皆で歌を歌いまくり、あつというまに着いてしまいました。こちらはショーを短めに切り上げ、大水槽の前で大きな魚に釘付けでした。でも、なぜか「おいしそーやね」という声が聞こえていました。その後、ゴマファザラシの不思議な水槽を皆で楽しみました。食事では、皆さん食べること食べること、誰かさんの分までもらって食べた人もあるくらいでした。食事の後は、海岸に出て博多湾を眺めながら、海の潮風を満喫しました。

今回の旅行では、病棟のスタッフ

フの皆さん、ウエルバスの運転士さん、ザ・ルイガンズのスタッフの皆さんにお世話になりました。参加者一同心から感謝しております。また、帰ってきてから、お世話になった皆様にお礼状を書き、それぞれお送りしました。



ひかり棟チーム



めぐみ棟チーム

# ハロウィン

10月27日から5日間、通所ではハロウィンパーティーが行われました。開園祭が終わると、いよいよハロウィンに向けての準備が少しずつ始まります。地下入口の自動ドアや通所内の壁面装飾のカボチャやお化け、仮装の衣装作り、利用者さんと一緒にイメージを膨らませながら作り上げていきます。通所の入口にはお母さん方から頂いたカボチャに様々な表情を付けてみんなをお迎え。10月に入る頃には通所は入口から室内までハロウィン一色。あとはハロウィン本番を待つばかりです。

例年お菓子をいただいていたばかりでしたが、今年は逆で、「お菓子をもらってくれないと悪戯しちゃうぞおっ!!」と、いつもお世話になっている方々へお礼の気持ちを込めてお菓子を配って回り、一緒に記念写真を撮ってもらいました。園内はもちろんです、今回は外にも出かけました。隣接するグループホームの建築工事の方々にもお菓子を配り「ハッピーハロウィン!」の声掛けで素敵な記念写真をパシャ。みんなの心のアルバムに素敵な思い出がまた一つ増えました。

どこへ行っても利用者さんの可愛く、かっこよく、ちょっと面白い仮装姿にみんな笑顔です。「楽しかった、ありがとう。」の言葉をいただいて利用者さんも満足そう。たくさん笑顔に出会えた楽しい

ハロウィンウィークになりました。業務中に参加してくださった皆さん、ありがとうございます。

(通所看護師 菅原)



「みんなでハロウィンパーティ〜」

## 園外活動

十月十五日、台風一過の秋晴れのもと毎年恒例の通所園外活動が行われました。今年は福岡空港へ十九名の利用者様とそのご家族、ボランティアの方々も参加して頂き大勢で出かけました。

空港に到着するとなんだかウキウキ気分。諸注意を聞いた後は、いくつかのグループに分かれ空港内を散策しました。空港内は誘惑がいっぱいあり、あっちこっちのお店でお母様たちはニコニコ笑顔。それを見ている利用者様も、とてもよい表情をされていました。

昼食は飛行機が見えるところを選び、それぞれ楽しいランチタイムを過ごされました。展望デッキ

(通所療育員 小林)



「みんなでハイチ〜ズ!」

に行く、雲一つない青空で風が心地よく、大きな飛行機を間近で見られました。また、轟音を聞いて興奮する方もいらっしやいました。シャトルバスに乗り、国際線の方へ行かれたご家族もいて、国内線に比べると人もそれほど多くなく、ゆっくり散策することができて満足な様子で帰ってこられました。外国の方に、一緒に写真を撮ってくださーい!と英語でお願いして撮ってもらった利用者さんという間に過ぎていきました。

集合時間になると皆さんの手にはお土産袋がいっぱい。まるで旅行に行ってきたかのようでした。とても楽しい園外活動となりました。

## 通所で頑張っています!

山元 久生さん

山元久生、26歳。ホークスとハンドタオルとマスケット人形が好きです。男の子ですが、ハンドタオルとマスケット人形は手放せません。もちろん、寝る時も一緒。ホークスの本多選手が好きです。背番号03のユニホームをばっちり決めてドームで応援します。バスを見るとなぜかテンション上昇。

今年9月から通所をし始めてまだ1ヶ月あまり。外來訓練、ショートステイなどで慣れているから大丈夫!と思っていました。通所は別だったように初日はさすがに緊張していましたが、今はスタッフや多くの方々のサポートの下、楽しんで活動しているようです。

先日、就学前から一緒だったひとつ年上の香織さんを見つ、「香織ちゃんがいるよ」と久生に言ったら自分から寄って行って肩をトントン。それに合わせ



山元久生さん

通所で課題にしている摂食の見直しも落ち着いてゆっくり出来そうだと手ごたえがある感じ。親の私もお母さま方から良い刺激をいただき、通所という良い時間を親子で頂けたと思っています。

週一の短い時間ではありますが、よろしく願います。

(母 山元 浩美)



外来  
療育

# 宇宙

## 『宇宙』の子どもたち

6月から、宇宙の一職員として療育を担当していますが、ずっと気になってい  
ることがあります。それは、「宇宙」と  
いうグループの名前です。就学前の可愛  
らしい幼児クラスですので、「ひよこ」と  
か「ちゅうりつぷ」等動物や花に例えた  
名前が頭に浮かびます。しかし、「宇宙」  
…。イメージ的には「限りなく大きい」  
「限りなく広い」「未知なる世界」といっ  
たところでしょうか。気になっていた私  
は、グループ名を考えた一人の職員に尋  
ねてみました。すると、「宇宙」と命名  
したのは「無限に広がる…」と「これか  
らの可能性を秘めている」との思いから決  
めたという事でした。

さて、宇宙の子どもたちとは、まだ半  
年のお付き合い。初めの頃は初のご対面  
で、お互いになんとなくぎくしゃくして  
いたことを思い出します。宇宙の活動は  
主に感覚あそび、絵本、制作、園外行事等。  
子どもたちとの触れ合いや楽しい時間を  
共有することで今では6月当初の雰囲気  
が嘘のよう…。最近の療育の場面では、  
友達を意識し目で追ってみたり友達に手

を伸ばしたり、まるで「遊ぼうよ」と  
誘っているかのようです。笑顔で登園し、  
人や場所にも慣れ、安心して活動に参加  
している宇宙の子どもたちを見ていると  
心が和みます。日に日にお兄さん、お姉  
さんになっていきます。これからも楽しく  
ワクワクするような豊かな経験や、多く  
の人と触れ合いながら宇宙にとびだして  
いきたいものです。

(言語聴覚士 櫻井)



「公園でブランコ」

# 火曜集会で証をしました

ひかり棟 因 道子さん

## 因さんの話を聞いて

どんな話をしてくれるのだろうか、と  
思いながら部屋を訪れると、もう正面  
に着席されていて、いつもより少し紅潮  
しているように見えました。

因さんの声は、その内容を表すよう  
に喜びに満ちていました。陣内さんの  
助けを受けながら、毎日の生活の中  
の出来事や気持ち、神様への感謝を伝え  
るその声は、たった一つの言葉すらも、  
身体全体から発せられ、聞いている者  
の心に感動を与えてくれました。

因さんの人生にも、私達の生活に  
も、辛い事や哀しい事はあるでしょう。  
この日のために、随分準備、努力され  
たとも聞きました。しかし、その声は、私  
達を包み、子の全てに親が喜びを感じ  
るように、愛する人の全てが自分の喜  
びになるように、暖かい気持ちをもた  
らしてくれました。お話の中で、因さん  
は沢山の感謝の言葉を述べられていま  
したが、報いられ感謝するのは私達の  
方です。

因さん、素敵なお話をありがとう。  
あなたの存在こそが証です。

(診療部長 渡辺浩行)



「素敵な証をありがとうございます」



「にっこりスマイル♪」

# めぐみ棟の活動!!

## サークル活動

運動・感覚・スノーズレン・製作・音楽と様々な活動サークルがある中で、今回は音楽に触れ音楽を感じ、身体を動かして楽しみました。メンバーは久保山信さん、谷口智哉さん、長倉光さん、入山秀美さんの4名。

初めはゆったりとした曲「まっぼっくり」に合わせて、オーガンジの布を顔や、身体に揺らし、感覚と音楽を楽しみ一対一の関わりをとっても喜び、顔に布が触れると声に出して楽しんでいました。

一対一で関わった後は、ピアノのリズムに合わせて支援員と利用者でリトミック!!ピアノの音を早くすると支援員は早く歩き、高い音の時はスキップをしたりと、音楽の速さや音の違いを楽しめるようにしました。動いている時の利用者の方たちとても楽しそうな、素敵な笑顔も見られました。

これからも音楽を通して、利用者の方々が楽しんで参加できるように、行ってみたいと思います。

(めぐみ棟保育士 田崎)



「音楽に合わせて」



「とっても気持ちいい☆」

## 園外活動

今日は待ちに待った園外活動の日です!

メンバーは大場さん、浦田さん、廣池さん、谷口さんの4名。地下鉄に乗って福岡空港へ出発です。

貝塚駅へと向かうバスの中では、今日の子定が発表され、ランチは何にしようかな♪♪どんな飛行機が飛んでるのかな♪♪地下鉄へは無事に乗れるかな♪♪と皆で楽しくお話しをしました。朝から少し緊張気味の大場さん・・・ここで嬉しいお知らせが!なんと大好きなお母さんが空港から合流できることになりました!お知らせを聞いてニコニコ笑顔の大場さんになりました。

貝塚駅では皆で一緒に改札を通り、ホームで駅員さんと記念撮影♪

地下鉄はとっても速くて沢山人が乗っていて皆ドキドキです。素敵なスカーフでおしゃれしてきた浦田さんは気持ちがよくてウトウト・・・♡

乗換も無事に終え、福岡空港に到着です。まずはお楽しみのランチタイム♪

ロイヤルの飛行機がよく見えるすてきな席でお食事です。廣池さんはお母さんと一緒にハンバーグや海老フライを食べ、いつも以上にばくばく美味しそうに召し上がりました♡大場さんはお母さんと飛行機を見ながらペロペロキャンディを食べ、ニコニコ♪皆とても美味

しそうでした。

空港散策ではお買いものをしたりC Aやパイロットの方とも記念撮影できました。谷口さんは飛行機を見にテラスへ!大きな音がかっこ良かったです。大きくなってかっこ良かったな〜!

帰りのバスではそれぞれ空港でお買い物したものを見せ合いっこしたり、一日の思い出を話したりして帰りました。

楽しい顔や、美味しい顔や、ビックリした顔など、皆さんの色々な表情を沢山みる事ができたとても楽しい園外活動でした。ありがとうございました。

(めぐみ棟介護福祉士 竹尾)



「空港の皆さんとハイポーズ!」



# ひかり棟の活動!!

## 遊園地へGO!!!

10月24日金曜日、園外活動で香椎花園に行ってきました！当日になるまでお天気や気温の心配をしていましたが、少し暑い位の良いお天気で風もなく絶好の遊園地日和でした。

今回の参加者は、中山さん・濱口さん・馬場崎さん・吉原さんの4名。バスの中でどんな乗り物があるか、どんなお花が咲いているのか、昔と比べてどんな風が変わっているのかなど、利用者様・保護者様・スタッフでワイワイお話ししながら香椎花園に向かいました。香椎花園に着くと、可愛いちびっ子達がたくさんいてびっくり。近くの幼稚園の遠足だったようです。皆で、ちびっ子達に「おはよう」と手を振ると、可愛い手を振って「おはよう」と応えてくれました。

園内に入ると、色々な乗り物が目に入ってきました。まずは観覧車からと言うことで、観覧車に乗りました。一番上になるとちよつと怖かった吉原さん、もう少し刺激が欲しいような濱口さん、ゆっくり乗り物を楽しめた中山さん、下からみんなの観覧車に手を振る馬場崎さん。それぞれの楽しみ方で、スタート

です。「次はもう少し風を感じたいね」「あれはどうかかな?」「これも楽しそうだね」と相談しながらたくさん乗る乗り物に乗る事が出来ました。

乗り物に乗った後は、待ちに待ったお昼ご飯です。なんと今回は、中山さん・馬場崎さん・吉原さんはお弁当持参です。何が入っているかなとワクワクしながら開くと可愛いお魚の姿が・・・味はどうかかな?一口食べると「おいしい!」とみんな笑顔を見せてくれました。濱口さんはオムライスをパクパク食べてにっこり素敵な笑顔を見せてくれました。

ご飯の後は、お散歩タイム、触れ合い動物園でヤギに会ったり、コスモスをみたり、シルバニアファミリーと写真を撮ったり。楽しい時間を過ごしました。一番乗り物に乗った濱口さん、お兄さんと楽しそうに過ごしていた中山さん、おばさんに素敵な笑顔を見せていた吉原さん、お

花やお人形と沢山写真を撮った馬場崎さん。それぞれの楽しみ方で、素敵な思い出を作る事が出来たと思います。

最後に・・・香椎花園のスタッフの皆さんには、乗り物に乗る時は乗りやすい場所に移動してくれるなど、たくさんの方の配慮をしてくださりました。こうして皆さんと楽しめたのも、香椎花園のスタッフの皆さんのおかげだと思えます。ありがとうございます。

来年もまた、お世話になりたいのでよろしくお願ひします!!!

(ひかり棟保育士 島津)



## 開園祭

初めて開園祭に参加して、私ほどの利用者さんたちも普段とは違った生き生きとした表情をしていると思えました。喫茶活動や歌の会など様々な行事や活動がありますが、夏祭りや運動会・開園祭などの年に一度のイベントは利用者さん達にとって特別なことなんだなと思います。開園祭に行く前の、まだか、まだかとそわそわして待っている利用者さん達をみて、どんなことがあるのかなと私も楽しみに待っていました。

開園祭が始まって喫茶店やバザー売り場などを回りました。人がすごく多く、にぎやかで全部回るのは中々大変でした。バザー売り場では、利用者さんは回りをキョロキョロと興味深そうにしている、ぬいぐるみを渡すとぎゅつと握って気に入って貰えたことが嬉しかったです。

普段、業務に慣れておらず、ワタワタと焦っていることが多いですが、この

日はバザーでぬいぐるみを買ったり、美味しいカレーを食べたりとても楽しかったです。食券を多めに買っていたので、余った分を全てヨーグルトに使ったのはいい思い出です。

(ひかり棟看護師 吉見)



「公開療育のピアノは大成功!!!」



「僕の笑顔で作品も売れました★」

メモ帳

校施設見学(8名)

【7月】

▽1日 韓国ウルサン科学大  
学施設見学(7名) ▽2日 鞍手  
町手をつなぐ親の会施設見学(5  
名)、福岡私設病院協会専門学  
校看護学実習(5名)▽7/12  
▽4日 九州沖縄地区重症心身  
障害児施設経営研究会施設見学  
(36名) ▽6日 久山町中久  
原祇園祭万度参り ▽7日 七  
夕行事 ▽8日 産業医科大学  
医学部実習①(6名)▽7/9  
▽9日 通所夏祭り(26名) ▽  
11日 重症心身障害看護師研修  
会 ▽7/13 ▽12日 ボラン  
ティア講習会(11名) ▽13日  
久山町東久原子供みこし来園  
▽14日 労基署安全衛生調査、  
福岡県私設病院協会専門学校看  
護学実習(5名)▽7/23 ▽16  
日 JOY倶楽部音楽会(8名)  
▽17日 福岡和白リハビリテ  
ーション学院施設見学・講義(44名)  
▽18日 福岡県障害者福祉課  
来園(2名) ▽西南高校宗教部  
より施設見学(生徒30名) ▽22  
日 産業医科大学医学部実習②  
(6名)▽7/24 ▽26日 入  
所夏祭り ▽29日 若杉病院施  
設見学(3名)、築城特別支援学

【8月】

▽1日 (独)高齢障害求職者雇  
用支援機構福岡高齢・障害者雇  
用支援センター来園(1名) ▽6  
日 介護老人保健施設職員の医  
療的ケア研修 講義(受講生15  
名 聴講者3名) ▽7日 社  
会福祉法人等指導監査、介護老  
人保健施設職員の医療的ケア実習  
(看護2名、介護4名)▽8/8  
▽11日 筑紫女学園大学社会  
福祉科実習(2名、ひかり棟)▽8  
/22 ▽13日 東久原祇園祭り  
(入園者6名、職員7名参加)  
▽18日 コロニー友の会ワークキ  
ャンプ(98名参加)▽8/20 ▽22  
日 精華女子高等学校看護専攻  
科実習オリエンテーション(学生20  
名) ▽23日 主の十字架クリ  
スチャンセンターによる音楽会「ゴ  
スペル」▽25日 精華女子高等  
学校看護専攻科小児看護学実習  
(20名)▽10/10、西南学院大学  
児童教育学科実習(3名、ひかり  
棟)▽10/4 ▽30日 平尾教  
会による音楽会「フラダンス」

【9月】

▽2日 介護老人保健施設職  
員の医療的ケア研修 講義(10  
名) ▽3日 介護老人保健施  
設職員の医療的ケア実習(看護

2名、介護4名) ▽9/4  
6日 認定看護師研修会研究発  
表(参加者58名) ▽8日 福岡  
和白リハビリテーション学院地域  
作業療法実習(1名)▽9/12、  
筑紫女学園大学社会福祉科実習  
(2名、通園)▽9/30 ▽9日  
松尾建設他業者による施設見  
学(7名)、バンビ多の津職員施設  
見学(2名) ▽10日 中途入職  
者オリエンテーション(6名)▽8  
/11、西南中学母の会ボランティ  
ア来園(18名) ▽12日 福岡女  
学院看護大学施設見学・実習(学  
生3名・教員2名) ▽14日 開  
園祭保護者作業日 ▽16日 舞  
鶴幼稚園保護者会ボランティア来  
園(20名)、粕屋6町相談支援事  
業所職員施設見学(5事業所7  
名) ▽18日 訪問看護師養成  
講習会施設実習 ▽9/19 ▽  
22日 郵便事業助成人工呼吸器  
査察、精華女子短期大学保育福  
祉専攻科実習(3名)▽10/3  
▽23日 第38回開園祭 ▽25日  
第40回日本重症心身障害学会  
学術集会(京都市)▽9/27 ▽  
26日 虹の家職員施設見学(5  
名) ▽29日 西南学院大学ソー  
シャルワーク実習(1名)▽10/31

開園祭勤続表彰職員の声

設備管理員

二宮 章年

30年

気がつけば、30年という長い年  
月を久山療育園で働かせていただ  
き、さらに永年勤続の表彰まで頂  
き誠にありがとうございます。  
入職した時は25歳で、男性職  
員も数少なく、生活棟で療育員と  
しての勤務でした。久山療育園に  
来る前は、製鉄の仕事をしていま  
したので、物を作る仕事から全く  
違う世界へと180度の転換でし  
た。

療育主任

陣内 晶子

20年

恥ずかしながらそれまで、重症  
心身障害児といわれている方々  
の存在を全く知りませんでした。  
最初は戸惑うばかりで、右も左も  
分からない私を温かく迎え入れて  
くれたのは、園児の方々でした。  
今は入所利用者と呼ばれていま  
すが、30年前の皆さんはまだ小  
さくて、中には体重が10キロに満  
たない方もいらっしゃいました。  
園児の皆さんは一生懸命生きて、  
こんな私にも時々微笑んでくれ  
て・・・そのことにどれだけ救  
われた事でしょう。

生活棟で12年勤務して、今は生  
活棟を離れ、事務部設備管理とし  
て裏方で勤務しています。気がつ  
けば30年間のうち設備管理として  
の経験が生活棟での経験を上回り  
ました。利用者の方々と直接関わ

この度は二十年表彰を頂き、  
感謝いたします。この二十年の間  
にひかり棟・めぐみ棟・通園に、  
各々関わらせていただきました。  
特に通園で働いた六年間は、私を  
大きく成長させてくれました。在  
宅の利用者の方々の生活を垣間見  
ることができ、ご家族の想いを直  
接聞く機会が持てたことで、利用  
者とその家族の気持ちに寄り添  
うことの大切さを教わりました。  
現在も病棟で働く礎となっていま  
す。

新しい出会いもあり、たくさん  
の別れもありました。その一つ一  
つは今も心に刻まれており、命に  
携わる仕事の重みを日々感じてお  
ります。

人生の半分を久山と共に過ごし  
た事になります。これからも「共  
に生きる」予定です。これからも  
お願いします。





リハビリテーション課長

金子 政彦

15年

久山療育園に就職して15年。初めは多くの先輩方に囲まれて仕事を教えて頂くところから始まりましたが、今は、次第に後に続く方々が増え、少しずつ教える立場になりました。かつての先輩方のように、親切に、丁寧に、思いやりのきもちをもって人に接することができています。職場であるリハビリテーション課も様変わりし、改築の際には専用の訓練室が与えられ、共に働く仲間も、OT、ST、PTの3職種に増えました。

現在は、在宅で生活されている重症児・者の方々の支援充実に向けて、さらなる取り組みが進められており、リハ課もその準備を始めています。

重症児・者の生活に寄り添っている、その時間の流れが独特なリズムを持っていることに気がつきます。ゆったりと時間が流れるとき、あわただしく流れるとき、うれしいとき、悲しいとき、楽しいとき、つらいとき... 傍らにいる私たち職員は、そのひとつひとつのリズムを感じて、あせらず、たゆまず、継続的に、誠実に、必要に応じて関わることの大切さを学びます。

利用者の方々と向き合っているときは、いつも、一所懸命、全力投球です。それは15年経っても変

わりませんし、これからも変わらないと思います。ただ、その関係性の中に、かけがえのない大切なものが備えられていることを知ることができました。「見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続く」といわれている創立聖句の意味が、利用者・ご家族と職員の関係性を通して示されていると感じます。15年間、温かく、うれしい時間を与えてくださったことに感謝いたします。また、これからもよろしく願います。

作業療法士

荒金 幸

15年

永年勤続15年の表彰をしていただきありがとうございます。リハビリの学校を卒業してすぐに新卒で入職しました。作業療法士として、社会人として久山療育園で育てていただいたと思います。そして、名前が変わり、出産し、母となった今でも働けているのは園内の

のスタッフのみならず多くの皆さんの支えがあったと本当に強く思い感謝の毎日です。今年に入職してすぐのころに幼児クラスを担当していた方々が成人となったこともあり、自分の勤続表彰も重なり、久山療育園での月日を思い出深く振り返る年となりました。しかし、実際のところあつという間というのが本音。そんなに月日が経っているのかと私自身驚きます。作業療法士になって17年目になります。これからも利用者の方々や子どもたちの「やりたい!」という気持ちを實現し、サポートしていける作業療法士になるためにがんばりたいと思います。



第38回 開園祭 表彰者

ボランティア表彰者

4000時間	奈崎 子	様
3000時間	良木 章	様
3000時間	川野 恵	様
2000時間	野田 美	様
2000時間	野中 美	様
1000時間	今中 子	様
1000時間	中 鈴	様
1000時間	波多 理	様
500時間	調 幸	様

職員永年勤続表彰者 (敬称略)

30年	宮内 年	子良彦	幸志子	和美	心愛
20年	二陣 章	波内田	金子	浦高	村坪
15年	波金 政	荒大末	日久中		
5年				壮佐	和み加

めぐみ棟 介護福祉士

久間 加津美

5年

永年勤続5年の表彰をしていただきありがとうございます。入職して5年が経ち、本当にあつという間に過ぎてしまったことに驚いています。

久山療育園で学生の頃介護実習をさせていただき、就職したいと強く思いました。日々利用者さんと向きあい、関わる中で多くの事を学び、そしてなによりも私自身が1番元気をもらっています。ご家族の方、ボランティアの方、職員の方に本当に良くしていただき感謝の気持ちでいっぱいです。これから私がらうばかりでなく、たくさんの笑顔と元気を与えられるよう関わられたら良いと思います。そして重心の方々と関わることの楽しさ等を多くの人に知ってもらえ、と良いなと思います。

本当にありがとうございます。

ひかり棟 看護師

末浦 佐和子

5年

5年表彰ありがとうございます。看護師になって35年になります。今、久山療育園で働かせて頂いている事に感謝しています。今後も安全・安心・安楽なケアが提供できるように頑張りますのでよろしくお願い致します。

ひかり棟 介護福祉士

中村 心

5年

5年表彰をして頂き、大変感謝しています。毎日楽しく過ごしているという間に先輩の立場になっていきました。日々の業務や後輩への指導、何より思った通りに出来ない自分自身を悩ませたことに癒され、そのお陰でここまで来ることができたように思います。また保護者の皆様やボランティアの方々からのご挨拶や温かい言葉も、私たち職員のお励みになっています。これからも、いつも笑顔で皆さんに元気をお裾わけできるように職員でありたいと思います。これから宜しく願います!!

ひかり棟 介護福祉士

大坪 壮志

5年

永年勤続5年の表彰をしていただき、ありがとうございます。あつという間に5年が過ぎました。振りかえると入職当初は右も左も分からず、毎日おどおどし、自分には向いていないと悩んだ時期もありました。今日まで来ることが出来たのは諸先輩方の温かい指導や、利用者様の笑顔があったからだと思っています。これからも初心を忘れず日々頑張っていきたいと思えます。

# ボランティアだより

## ボランティア講習会

一月八日(土)、今年度二回目のボランティア講習会を行いました。今回は九名の方に参加いただき、保護者とボランティアの方の体験談の際には五名のスタッフが部分参加しました。人数としては前回よりやや少なめでしたが、皆さんもとても熱心に受講して頂き、とてもよい雰囲気で行うことができました。

毎回、好評をいただく体験談では、まずボランティアの伴敦子さんと小牟田真帆さんに、楽しく無理なく活動されていること、利用者の皆さんから元氣や癒しをもたらしていることなどを話して頂き、通所保護者の百田由美子さん、入所保護者の又野洋子さん

には、お子様を育てられたなかでの様々な思い、特に障害をお持ちのお子さんがあることで家族が繋がりが癒しがあること、また、ボランティアさんへの期待などをお話し頂きました。

病棟での入所利用者との交流の時間は、紙のひっぱり相撲で盛り上がり



りました。最初は戸惑いがあったかと思いますが、お互いに徐々に慣れてくるにつれ、笑顔で交流される姿があちこちで見られました。皆さんの感想をご紹介します。

「今後、障害者やその家族のために、ボランティアとして何ができるかじっくりと考えてみたいと思った」

「保護者やボランティアの方の体験談はとても印象に残った。勉強になった」

「今後は兄弟姉妹の方の体験談を聞きたいと思った」

「ボランティアの方々のお話が、とても前向きで喜びがあつて、明るい印象を受けた」

「現役ボランティアさんと、休憩中

にいろいろお話しすることができてよかった」

「入園利用者の方と楽しくふれあうことができた」

「(ふれあいでは)声かけがうまくいかなかった」

「久山療育園の創設の話聞き、重症心身障害児者にとつてとても大事な施設であり、深い意義があることがわかった」

など、さまざまな貴重な感想をいただきました。

今後も、色々な方たちで園とつながっていただければと願っています。

来年度も、さらに内容を充実して行っていききたいと思えます。たくさんの皆さんのご参加をお待ちしております。

(相談支援主任 山田)

## 歩行器



好天に恵まれた10月24日(土)、昨年に引き続き久山療育園ボランティアの主催による第二回目となる「久山デー」が、福岡市中央区の平尾パプテスト教会大名クロスガーデンで開催された。

午前は久山療育園の入所者と保護者の皆さんが到着され、平尾パプテスト教会のフラチャームによるフラ賛美のときを分かち合った。ステージの上から参加者へ向けて、ハワイの魚取りの動きをテーマとしたフラダンスを教えて下さった時間は楽しかった。

その間、教員の方々とボランティアが一体になり、参加者へ向けて美味しい昼食が準備されている。バザーも食事も心を尽くして準備された品々である。障害を持つ方々、利用者、ご家族、久山の職員、教会関係者、関心を寄せて来場くださった一般の方々、ボランティアがひとところに集まって、楽しく食事をする昼休みの光景は、その日の日差しよりもっと暖かかった気がする。

心を尽くしてボランティアによる紙芝居やマジックが披露される。完成度の高さと感動を

もたらずパフォーマンスに驚かせられ、「元気に仕事をしなくちゃ」という気になった。

午後は、埜口浩之さんのファゴット、立花洋一さんのピアノ、小野稔隆さんベースによるチャリティコンサートで演奏者と観客が今年もまた一体となった。耳の横で響きわたる楽器の音色に一人ひとりが目の輝きを増した。アンコールの終わりに埜口さんは「来年もぜひ！」と言つて下さった。早くも再会が待ち遠しい。

(T・M)

○入所利用者のクリスマス

12月16日(火)

10..30より

メッセージ 山田雄次理事長

○久山療育園クリスマス会

12月18日(木)

13..30~14..30

メッセージ 城前和徳牧師

(和白パプテスト教会牧師)

\*終了後、懇親会開催の予定

○通所クリスマス

12月19日(金)

10..30

メッセージ 山田雄次理事長

